

○大日権現

◇御 祭 神

木花開耶媛命

大 日 如 来

◇所 在 地

伊勢市中島町京町地内 宮川堤

◇由 来

寛永から元禄年間にかけて、台風などの襲来の度に『宮川』は氾濫して、堤防などの決壊などの災害が発生して、人家、人命が数多く失われていた。

寛永の頃の『松井孫右衛門』がこの災害、被害から人命を守って 人柱 になられたことは、よく知られている。

ところが『松井孫右衛門』が人柱になられてからも天災は絶えることなく、多くの人が水害になやまされていた。

宮川の地元に、町人で『彦兵衛』と云う人が住んでいた。この方は祖先の菩提を『大日如来』様によって信仰して居られた。近くの宮川の毎年の災害に心を痛め、洪水や家が流されたりすることに、心を痛めていました。『孫右衛門』が人柱になられてから100年程経過した時代である。

『彦兵衛』は、この様ではと『松井孫右衛門』の墓前に願をかけました。ある日『彦兵衛』の枕元に、孫右衛門さんが、当時の服装で立たれ

「彦兵衛よ、お前の気持はよくわかる、この俺もお前と同じであった。俺が人柱となって世を救うと云う事は所詮人間が死に至って何の力が出ようぞ、彦兵衛よ この願を聞いてくれ 「幸い伊勢の国は、天照大神のおわします処、お前が神宮に御祈願して、の祖先と供に合祀して『大日権現』として祭られよさすれば 子々孫々の代に安穩の時代が来て、栄える地となろう」と伝えて、孫右衛門は消えられた。

彦兵衛は これを実行して現地に 碑 を建てられたが、安堵してか後世に伝えるまでもなく他界された。

それ以後、この地に『大日権現』が人に知られることなく、守護神として鎮座されたのである。

【出典】大日権現社『大日権現 祭典 ご案内』（平成6／1994年）
リーフレット